



ことばで
つながる
みんなの未来

やさしい日本語 チャレンジ 2026

やさになち
甲子園

9月27日 日

14:00-17:00

会場：渋谷QWS

プログラム

時間	プログラム
14:00	開会
14:05	ルール説明、審査員の紹介
14:15	東京農業大学第三高等学校（埼玉県）
14:30	鹿児島中央高等学校（鹿児島県）
14:45	駒込高等学校（東京都）
15:00	休憩
15:15	勝田中等教育学校（茨城県）
15:30	福岡雙葉高等学校（福岡県）
15:45	寒河江高等学校（山形県）
16:00	休憩＆審査
16:20	審査結果発表＆講評
16:35	交流タイム
17:00	閉会

主催・後援

主催：明治大学国際日本学部
共催：多文化共生都市会議 やさしい日本語普及連絡会
後援：文部科学省、国際交流基金
協賛：株式会社BRIDGE MULTILINGUAL SOLUTIONS
協力：アクラス日本語教育研究所

東京農業大学第三高校 うーぱーるーぱー

「やさ日でつながる青春～国境を越えよう！～」



【メンバー氏名と学年】

佐藤未来(高校 1 年)・梅村明莉(高校 1 年)

【チーム紹介とプレゼン概要】

東京農業大学第三高校の 1 年生ペアです。私たちはグローバル課程に所属しており、海外交流に興味があります。経験は浅いけど、やさしい日本語を広めるために頑張ります！今回のチャレンジの目的は、日本語を学ぶオーストラリアの中学 3 年生と、やさしい日本語を通して交流し、より仲良くなることです。やさしい日本語を通して世界中に友達を作るとともに、日本語の輪を広げていきます。さらに、やさしい日本語を学び、実際に使う過程を通して、社会課題の解決につながるアイデアを提案します！

鹿児島中央高校 鹿児島中桜

「やさしい日本語でつなぐ共生社会

ー外国人が使える例文集・Webサイトの制作ー」



【メンバー氏名と学年】

安田 湧(3年)・貴島 大喜(3年)

【チーム紹介とプレゼン概要】

私たちは、鹿児島中央高校3年生の男子2人組、チーム「鹿児島中桜」です。チーム名には、鹿児島中央高校を起点に、桜島のある鹿児島から「ことば」で世界と人をつなぎたい、という思いを込めました。担当の吉村先生をはじめ、ALTや多くの先生方に支えていただきながら、2人で力を合わせて探究を続けてきました。高校3年生ということで受験勉強との両立は大変でしたが、わずかな隙間時間も大切に、一歩ずつ形にできました。これまで支えてくださった皆さんへの感謝と、私たちが積み重ねてきた思いを、思いっきり伝えます！

近年、在留外国人の増加に伴い、多文化共生社会の実現が求められています。しかし、従来の「やさしい日本語」は「理解支援」が中心で、「発話支援」は十分ではありませんでした。そこで私たちは、「理解支援から発話支援へ」という視点を提案します。外国人74名と県内企業57社への調査をもとに、ふりがなや文化の違い、よくある返答などを盛り込んだ例文集とウェブサイトを作りました。さらに、QRコードで意見を集め、継続的に改善する仕組みを構築しました。誰もが自分の言葉で思いを伝えられる多文化共生社会を目指します。

駒込高等学校 SafeBridge

「やさしい日本語で、制度と人をつなぐ」



【メンバー氏名と学年】

大久保 龍之介（2年）・陳 思嘉（2年）

【チーム紹介とプレゼン概要】

こども食堂で活動する中、温かい食事があっても、住まいや学校、言葉の困りごとが支援制度につながらない場面を見てきた。制度はある。しかし、申請主義と難しい日本語が壁となり、探せる人だけが支援にたどり着く。そこで支援者が聞いた言葉を入力すると、AI が課題を整理し、地域の制度と照合。やさしい日本語に言い換え、QR コードで本人へ手渡す「SafeBridge」を開発・公開した。中国語を母語とする同級生と FRESC 見学を企画・運営し、その経験と明治大学での学びをやさしい日本語の設計に反映した。支援現場で育て、オープンソースとして全国へ広げる。やさしい日本語で「制度を探す」から「制度につながる」社会を目指す。プレゼンではデモを披露します。

勝田中等教育学校 M's

日本語が「わかる」と「伝わる」は違う。
～「やさしい日本語」から始まる多文化共生～



【メンバー氏名と学年】

梶山愛琴(4年) 飛田莉奈(5年)

【チーム紹介とプレゼン概要】

私たちは、部活の先輩後輩です。飛田は、去年から留学生のチューター制度に参加していて、今年はこの制度のリーダーを担っています。梶山は、今年からこの制度に参加しています。チューター制度とは、留学生の学校生活をサポートしたり、月に一回イベントを開催して交流を図ったりする制度です。我が校のこのシステムは留学生と同じクラスではなくても希望する誰もが交流できる制度となります。プレゼン内容は、このチューター制度に関わる内容です。やさしい日本語でも「わかる」ということと「伝わる」ということが違うと感じ、実際に留学生の生の声を聞き、「やさしちガイドブック」を作成しました。その「やさしちガイドブック」を月に一回のイベントでチューターに実際に使用してもらい、フィードバックをもらって「やさしちガイドブック」をブラッシュアップ。最終的には生徒全員に配り、活用して行きたいと思っています。

福岡雙葉高校 (CH0-G∞D)

「誰でも楽しく過ごせる学校生活に
～やさしい日本語×学校生活～」



【メンバー氏名と学年】

野口桃花(2年)・長みりあ(2年)

【チーム紹介とプレゼン概要】

私たちは福岡雙葉高等学校の CH0-G∞D です。

学校で、同じクラスの中国人の子にボールをぶつけてしまった時、「大丈夫?」「どこか怪我した?」とたずねましたが、言葉が伝わらず、怪我をしているのかなどが分かりませんでした。

この経験から、留学生や帰国子女の子などとしっかりコミュニケーションを取りたいと思い、「やさしい日本語×学校生活」について活動することにしました。また、英語が話せないことなどを理由に、留学生や帰国子女の子と話せない人が多いこともわかりました。

そこで、コミュニケーションや学校生活の中で日本語が分からず困ることを少しでもなくすために活動しました。

山形県立寒河江高等学校

さくらんぼ隊

「災害情報を『伝わる言葉』に変えるには？」



【メンバー氏名と学年】

松田謙信（2年）・榮木瑞希（2年）・佐藤はな（2年）

【チーム紹介とプレゼン概要】

私たちは、在住外国人の災害時における不安軽減・災害意識の向上につながる、「やさしい日本語」のハザードマップの作成を行っています。アンケート調査をもとに、必要な情報を分かりやすく伝える方法について、メンバーで意見を出し合いながら探究を進めてきました。

プレゼンテーションでは、まず本探究の背景や目的について説明し、村山地区に居住する外国人を対象に実施したアンケート調査の結果から明らかになった課題を紹介します。その上で、調査結果をもとに作成した「やさしい日本語」のハザードマップについて、作成する際に工夫した点を説明します。最後に、今後のマップの配布や改善について触れ、誰にでも分かりやすく、災害時に実際に役立つ防災情報を目指した本探究の今後の展望を示します。